

廿日市市の文芸碑拓本

今川貞世歌碑

(大野町寺屋敷)

(宮浜温泉 海望の源泉地碑近く、宮浜配水池際)

今川貞世(了俊)が九州探題に任ぜられて
下るとき應安四年(1371)九月二十一日当
地で詠んだ歌

浪の上に 藻塩焼くかと

見えつるは あまの小舟に

たく火なりけり

今川貞世(いまがわさだよ)嘉暦元年(1326年)-- 応永27年(1420年?)は鎌倉時代後期から南北朝・室町時代の武将・歌人。遠江、駿河の守護大名。室町幕府の九州探題。九州探題赴任中は備後、安芸、筑前、筑後、豊前、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩の守護も兼ねた。法名は了俊(りょうしん)で、今川了俊と呼ばれる事も多い。

三代将軍足利義満時代の1370年(建徳元年/応安3年)頃に、管領の細川頼之から九州探題に推薦され、正式に任命された。観応の擾乱後に南朝方の菊池武光が征西大将軍懐良親王を奉じた征西府、尊氏の庶子(直義の養子)である足利直冬等が分立し、征西府が少貳頼尚を撃破して大宰府を占領し、南朝勢力が強くなっていた九州の平定のために派遣される。

10月に京都を出発、1371年(建徳2年/応安4年)5月に安芸に留まり、毛利元春、吉川経見、熊谷直明、山内通忠ら国人衆を招集している。同年の12月に九州へ渡り、1372年(文中元年/応安5年)6月には南朝勢力から大宰府を奪回し北朝方の拠点とした。1375年(天授元年/永和元年)には九州平定に成功する。1395年(応永2年)に二十五年にわたる九州探題を罷免されて駿河(静岡県)半国の守護として赴任。1402年に上洛し、晩年は「難太平記」・「言塵集」という歌集・紀行文「道ゆきぶり」などの和歌や著作活動を行い、応永27年(1420年?)96歳前後で死去。



今川貞世(了俊)が九州探題に
任ぜられて下るとき

應安四年(1371)九月二十一日

当地で詠んだ歌

浪の上に

藻塩焼くかと

見えつるは

あまの小舟に

たく火なりけり